

【環境】 環境意識の高まりに伴い 容器選択・売り場が変わる

環境は経営課題へ～今年見られた3つの特徴～

特徴①スーパーマーケットだけでなく 全国各地・様々な業界で数値目標設置!

経営目標への具体的な環境数値目標の有無(2022.7エフピコ調べ)

調査企業
184社

設定企業
78社

【内訳】
・小売25社
・外食7社
・食品メーカー43社
・食品加工ベンダー2社
・レジャー関連1社

食肉N社(関西)
2030年度までに化石燃料由来のCO₂排出量46%以上削減(2013年度比:国内)

スーパーO社(北海道)
2030年までに温室効果ガス排出量を26%削減(2013年比)

スーパーI社(北陸)
年間プラスチック使用量5%削減

食品卸M社(東京)
2050年CO₂排出量を60%削減、食品廃棄量を50%削減(2016年度比)

外食S社(東京)
CO₂排出量2030年までに50%削減、2050年まで実質ゼロに(2018年度比)

コンビニY社(東京)
オリジナル商品で使用する容器は、2030年までに環境配慮型素材50%使用、2050年までに100%使用

特徴②環境に対する目標がより細分化 4つの項目で具体的数値化が進む!

① CO₂排出量の削減

② プラ使用量の削減

③ 環境配慮素材の選択

④ 食品ロスの削減

SM A社	CO ₂ は2050年にグループの店舗運営に伴う排出量実質ゼロ。プラスチックは2050年にオリジナル商品で使用する容器は、環境配慮型素材100%使用。
SM B社	店舗で排出するCO ₂ 等を総量でゼロ、2030年までに店舗使用電力の50%を再生可能エネルギーに切り替え。事業活動で使用する使い捨てプラスチックを2030年までに2018年比で半分に減らすというグループ全体目標に先駆け、2025年までに完了する目標
SM C社	2030年までにCO ₂ 排出量30%削減(2013年度比)/2030年までにプラスチック製容器包装80%削減(2018年度比)/2030年までに食品ロス50%削減(2018年度比)、食品リサイクル率70%。

特徴③店頭や回収BOXだけでなく 売り場から環境メッセージを発信!



エコPOP展開企業
7月現在

3,537店舗

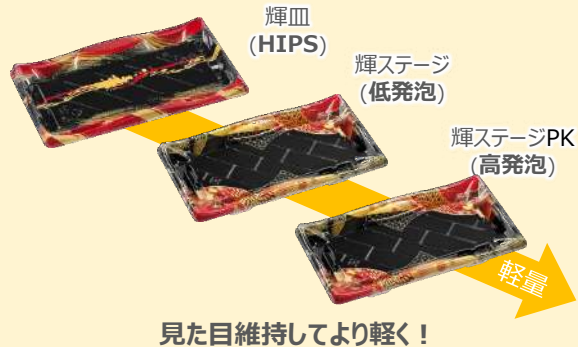
133社

4つの項目に対して容器でできるご提案

① CO₂排出量削減



② プラスチック使用量の削減



③ 環境配慮型素材



④ 食品ロスの削減



販売代理店

OZEKI PACKAGE

CO₂削減 (リサイクル)

各社重点課題に挙げているのがCO₂削減

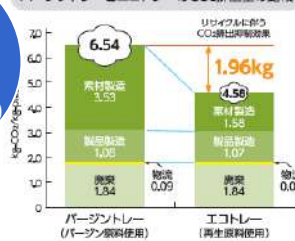
エコトレーに変えるだけでCO₂排出量削減

使用するその売り場から削減効果を発信



CO₂ 低減効果
-30%

パージトレーとエコトレーのCO₂排出量の比較



全国でエコPOP設置企業 エピコ調べ

2021年12月末時点

64社

2,739店舗

2022年7月現在

133社

3,537店舗

約半年で倍の企業が取り組み

売り場で

店頭回収リサイクルされたトレーを活用しCO₂削減をアピール



店頭・回収BOXで

CO₂削減効果・メリットを提示



商品で

消費者に分かり易くトレーの刻印も変化

エコトレー
エコマーク



エコPET・エコPE T

エコマークとペットボトルリサイクル品の刻印



プラスチック使用量の削減

基準はプラスチック使用量の削減ヘシフト

商談日報キーワード件数集計
【軽量化・プラスチック削減・省資源化等】

※エピコ調べ

1年間で
約2.5倍
報告増加

66

2021年

160

2022年

環境意識の高まりで注目度アップ!

2022年4月～
プラスチック資源循環促進法実施

(環境省HPより)



プラ新法4つの目標

- ① 不必要な使用をしない
- ② 再生可能素材に切り替える
- ③ リサイクルを徹底する
- ④ 資源として循環させる

取り組みの有無が
企業評価へ

上手に活用

脱プラ → 減プラ

部会などの容器選定の様子...



容器選択の基準が変わる...プラ使用量の追加

容器決定時の主な選択要因

見映え

サイズ

作業性

コスト

+

プラスチック使用量 / 容器重量

プラスチック使用量の削減容器が採用条件

容器重量が「軽い」容器の使用を本格化



【会社方針】
プラスチック容器
包装の削減
を進めていく

容器包装の簡素化や軽量化、
リサイクル可能な単一素材や
環境にやさしい容器への転換を
進めています。 ※HP内容抜粋

【会社目標】

各部門**10%** 各店舗**25%**
包材重量削減（2019年比）

【惣菜部目標】

年間**140t** 削減
（年間1,400t使用）

重量が「軽くなる」
ことが採用条件

※2022年7月時点実績

約**100t**削減

目標設定をすることで
何をすべきか明確になる

各部門が数字目標を持つことで、日々の商談で容器選択基準へ

プラスチック使用量の削減容器 切り替え一例

非発泡→発泡



MSDプレインTK MFPホットキッチンTK

MSD・MFP素材
プラスチック使用量比較
約**35%**削減

中皿あり→なし



SBセット (中皿あり) MSD穂高膳 (中皿無し)

MSD・MFP素材
プラスチック使用量比較
約**8%**削減

蓋付き→容器+袋



SA-40 FLステージ+スタンドパック

MSD・MFP素材
プラスチック使用量比較
約**71%**削減

【ご提案】見映えは損なわずプラスチック削減可能な新製品登場！

Sステージ R蓋



通常蓋 ※19-17サイズ比較

通常蓋⇒R蓋
プラスチック使用量比較
約**25%**削減

MTD R蓋



通常蓋 ※20-20サイズ比較

通常蓋⇒R蓋
プラスチック使用量比較
約**26%**削減

大波皿 R蓋



通常蓋 ※2-5サイズ比較

通常蓋⇒R蓋
プラスチック使用量比較
約**22%**削減

鈴音PT (低発泡容器)



非発泡 ※2-5サイズ比較

非発泡⇒低発泡容器
プラスチック使用量比較
約**60%**削減

輝ステージPK (高発泡容器)



低発泡 ※2-5サイズ比較

低発泡⇒高発泡容器
プラスチック使用量比較
約**23%**削減

メガプレート (ラップ容器)



蓋付き ※24-24サイズ比較

蓋付き⇒ラップ容器
プラスチック使用量比較
約**68%**削減